

①規格外や低未利用品の有効活用

あわら産柿の葉を活用した柿の葉すしなどの製造・販売事業

福井県下最大の柿の産地であるあわら市特産「越前柿」に着目し、これまでは未利用であった柿の葉を活用した柿の葉すし等を製造する。

➤ 連携体

農林漁業者

JA花咲ふくい（農業）

柿の葉の収穫・選別・洗浄・乾燥を行う。また、規格外柿、未出荷柿の集荷、出荷を行う。

中小企業者

(株)三丹本店(食料品製造業)、大同青果(株)(飲食料品卸売業)

あわら産の柿の葉と福井産の食材を活用した柿の葉すしを製造・販売する。また、規格外柿を使った加工用冷凍柿、未出荷柿を使った業務用干し柿の加工・販売を行う。

連携参加者

あわら市商工会(政治・経済・文化団体)

商品開発、販路開拓等の支援を行う。

福井県坂井農林総合事務所、福井県食品加工研究所、福井県農業試験場、あわら市、(独)中小企業基盤整備機構北陸本部

サポート機関等

➤ 連携の経緯

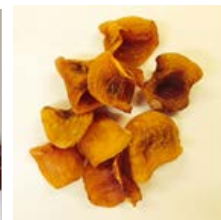
あわら市では、地元の関係者が協力して、集客につながるあわら市ならではのオリジナルお土産づくりに取り組んできた。その一環として、(株)三丹本店は、あわら市の特産品である越前柿に着目し、柿の葉すしの開発に取り組むこととした。一方、生産農家の高齢化等により、生産量が減少しつつあったJA花咲ふくいでは、産地の活性化の方策を検討しており、これまでは未利用であった柿の葉や規格外品等を有効活用することで、柿農家の所得、意欲の向上を図ることを目指し、連携に参加することとした。青果卸業を営む大同青果(株)は、規格外柿等を扱うことで、取扱いの少ない果実分野と加工分野の強化を図ることを目指し、連携に参加することとなった。



柿の葉すし



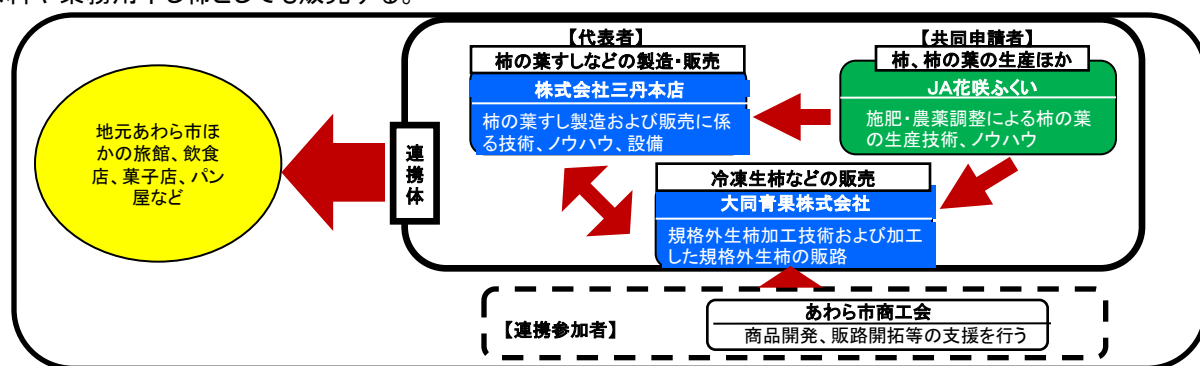
柿の葉



業務用干し柿

➤ 連携に当たっての課題や工夫等

新芽の季節の鮮やかな緑の葉や、秋口の赤みを増した葉などを使い分け、季節感を演出するとともに、柿の葉すしのネタに鯖や越前ガニなどの福井県産の海産物等を用いて地元ならではの柿の葉すしを開発する。また、柿の葉すしだけでなく、つまもの用としても柿の葉を出荷するとともに、規格外の柿をジュース等の加工用原料や業務用干し柿としても販売する。



➤ 連携による効果

農林漁業者

5年で345万円の売上高増加、新事業による産地活性化

柿の葉、規格外柿、未出荷柿を活用できるようにすることで柿農業の意欲向上、経営改善が期待される。

中小企業者

5年で2,838万円の売上高増加、新たな地域特産品の確立

柿の葉すしの製造販売により、経営の向上が期待されるとともに、あわら市の新たな特産品として地域活性化が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名：株式会社三丹本店
TEL：0776-77-1060
E-mail：info@act-santan.com

所在地：福井県あわら市二面3丁目706-2
FAX：0776-77-1575
ホームページ：http://www.act-santan.com